

豊かな自然があるから学べる



希少なささゆりの保護活動を
地元住民とお手伝い



食育にもつながる
農業体験



ラムサール条約に登録された
上高温地も学びの場



小規模ならではの
コミュニケーション



家庭と学校が協力して
学びの場を支えています



PCやタブレットを
一人一台活用したICT教育



先生は師でありながら
身近な存在



学年や学校区を超えた
生徒間交流



at school

子どもたちの人間力を育む学び

～石野の学校っておもしろい!～

【石野地区小・中学校】 東広瀬小学校／中金小学校／上鷹見小学校／石野中学校

石野の小・中学校では、豊かな自然や地域文化をいかした独自の学びを日々実践しています。子どもたちと先生の距離感が近い環境の中で、学校のみならず家庭や地域も巻き込んだ学びを享受できます。「人として大切なことを、学び、習い、糧となるように。」石野の子どもたちが、キラキラ輝いている理由です。



伝統や文化を
通して感性を刺激



先人から伝わる文化を学び
未来へつなぐ



学区の竹で作った炭は
いまや石野の特産物



others... 特色ある学びの仕掛け



地域との積極的かかわりで
社交性や自主性を育む



地元講師を招いた体験型学習

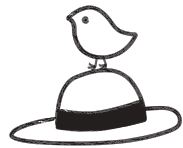


図書館を地域にも
開放して交流の場に



大事な乳幼児期の子育てを 豊かな経験と愛情であたたかくサポート

さくらんぼのメンバー全員が元・保育士!
手遊び、親子のふれあい遊び、絵本の読み聞かせ、人形劇など
専門職ならではのスキルとたくさんの愛情を注いだお楽しみメニューを
石野交流館で月に一度無償で提供してくれます。
当日参加OKの気軽さも人気のヒミツ。
子育てでパパ・ママ同士のつながりも自然と生まれる
とってもあたたかな時間です。



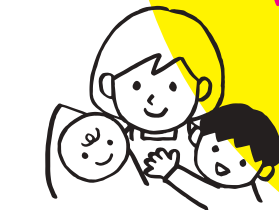
保育士として長年務めた経験を持つメンバーのみなさん。
中には園長先生だった方も。



使う道具はほぼ自前。プログラム
を考え、必要なものを手作りし、
子どもたちと過ごす時間が「とに
かく楽しい」のだそう。



子どもたちの真剣な様子。
物語の世界に入っているのかも!?



子どもも 大人も イキイキ できる 場所



child care

石野には、
石野に暮らす人々によってつくられた
独自の子育て応援のカタチがあります。
そこでは、子どもたちはもちろん、
子どもたちの親や地域の人たちが
あたたかな交流を育んでいます。
「子育ては、みんなですもの。」
そんな意識がこのまちには
自然と根付いているのです。



ダブルダッチの講師を外部から招き、
小学生によるチーム「インフィニティ」を
結成!週に一度、活動中。



地元のヨガの先生とお寺の
関係者をばーすが取り
持って、お寺ヨガが実現!
今では人気プログラムに。



「学校だけでなく地域の見守り目も
ありがたい」とばーすのメンバー。
石野で子育てするママならではの
「あったらいいな」が活動の原動力。

子どもやママの習い事など 斬新なアイデアで暮らしに豊かさを演出

自分たちの子育ての経験を生かしてほしいと、
アクティブなママたちが結成した「ばーす」は
平成30年(2018)に活動を開始して以来、
英語でクリスマス会、器械体操、ダブルダッチなど
子どもたちの感性を養う場を次々と創出。
さらにママを対象にしたお寺ヨガやアロマ教室を企画するなど
石野で豊かな時間が過ごせるきっかけをつくってくれています。
子育てにとどまらず、石野ライフがますます楽しくなりそうです。



そのほかにもこんな子育て支援



子育て広場

地域のこども園で、親子でゆっくりし
安心してくつろげる遊びと交流場所を
開放しています。
場所: 東広瀬こども園、中金こども園、
上鷹見こども園
利用可能日時: 各こども園で異なるため、
市ホームページでご確認ください。



子育て交流スペース

主に乳幼児のお子さんと保護者
が利用できます。
親子が楽しく遊べ、親同士の情
報交換の場所になっています。
場 所: 石野交流館ロビー
開催日: 石野交流館 開館日に準ずる

Let's play in Ishino!



遊びは子どものもの？
 いいえ、大人だって本当は遊びたいはず！
 石野でなら、そのロケーションを生かした
 本格的な遊びをいろいろと楽しめちゃいます。



このまちなら
 大人だって
 本気で遊べる！
 ~石野の遊び 5選~

大人も満足すること間違いなし！
 きっと暮らしにメリハリがつかますよ。
 ここでご紹介する遊びはほんの一部。
 楽しみ方はあなた次第です。
 目指せ、遊びの達人！



カヌー・ボート ▲富田町にて。

石野を流れる矢作川には「源氏の瀬」と呼ばれる急流が、あたかも源氏の武士のように猛々しい流れからその名がつけました。週末には、この急流で練習を重ねるカヌーイストの姿が見られます。そして、下流の石野町・勘八町では力強く、まっすぐに川面を突き進むボートの姿も見られます。

Canoe & Boat ▲勘八町にて。



マレットゴルフ

旧三河広瀬駅の隣でプレイ可能！廃線の南側に広がる、ちょっと変わったコースが特徴です。週末の土・日には駅舎でカフェが、プラットホームの前では野菜の産直市場が開かれます。マレットゴルフのついでに立ち寄れるのもうれしい♪



石野サーキット

▲所在地/
 豊田市石野町土橋264

遠方からも多くのファンが訪れる、レーシングカート用サーキットが石野にはあるんです。迫力あるレースが日々展開されています。見学もOK！レンタルも充実しているので、未経験者やファミリーなど、誰でもカートが楽しめるのも魅力です。



ゴルフ

▲南山カントリークラブにて。
 地元・中金町の方がラウンドしています。

自然豊かな石野にはゴルフ場がなんと3つもあります。そのため、住民がゴルフをきっかけに親睦を深めることも多々。世代を超えて楽しめるスポーツ・ゴルフで、いっしょに遊びませんか！



薪ストーブ

▲薪ストーブライフを求めて移住してきた彼ら。

薪をくべながら、火の揺らぎ、温かさを家族で楽しめる冬の贅沢。そんな憧れの薪ストーブライフも、土地にゆとりがある石野なら、煙突の煙を気にすることなく堪能できます。薪に必要な材木を山主さんからご厚意でいただけるのも、山が豊富な石野ならではの魅力です。

しいたけづくりが気づかせた “つながり”の大切さ

森さん／井原さん

二人とも石野地区の成合町在住。地域会議委員としても活躍し、変わりゆく石野、変わらない石野の姿を見つめている。



人と人をつなげる仕組みづくりを これからの石野に少しでも残したい

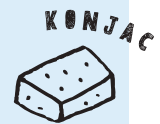
「地域を活かすために」と、たまたま環境が整った共有林があったことから「しいたけづくり」を始めたのが平成17年(2005)頃のこと。寒さが厳しくなる冬、直径15cm・長さ約1mの原木を大量に山から切り出す。体力が要る作業だ。菌打ち後、要所を除きほぼ自然に委ねて育てる。収穫は春と秋の年2回。当初のオーナー制度が盛況で、収穫時には山がおおいに賑

わった。それらの作業すべてがボランティア。子どもも大人も嬉しそうにしいたけを収穫する姿を励みに10年ほど続けたが、体力の衰えもあり泣く泣く活動にひと区切り。今では形を変え、地域イベントでしいたけの菌打ち体験などを行っている。こうした取り組みには手間がかかる。しかし、そこで生まれた絆が地域を一つにしてくれた。あれから数年、石野は人もまちも徐々に変化してきている。「今こそ“つながり”が必要だ。」二人はできる限りの活動をしつつ、未来の石野に思いを馳せる。

精魂込めたこんにやくは 石野想いのやさしい味

森さん(70代)

豊田市稲武地区出身。石野地区の勘八町に暮らして約50年。勘八太鼓の講師も務め、地元の子どもたちにボランティアで20年以上指導している。



こんにやくづくりは出来が毎年違うから面白い それに、喜んでくれる人がいる

こんにやくを芋から作り続けて15-6年という森さん。種芋を春に植え、芋が一人前の大きさに育つまでには4年もの歳月がかかるというから、趣味と言っても本気の趣味だ。秋に収穫する際、2-3年もの芋にっついてできる木子(キコ)が種芋となり、翌年にまたそれを植えて増やして…の繰り返し。こんにやく芋は日照りや水はけの悪さに弱く、とてもデリケート。森さんは

そんな芋を世話するためにはほぼ毎日畑へ足を運ぶ。そしてこんにやくづくりも最低半日はかかる大仕事だ。手塩にかけてつくるこんにやくを、ご近所や地域の集いの場で惜しげもなく振る舞う森さんは、なんて愛情深い人だろう。「こんにやくづくりを伝えていけたら」とちょっぴり強面なお顔を崩して笑う姿に、温かさがにじみ出ている。こんにやくづくりに込められているのは、石野や石野で暮らす人への想いだ。



石野の豊かさの象徴 もくもく窯と竹炭づくり

鈴木さん

石野地区の上高町在住。13年間にわたり、上鷹見小学校の竹炭づくりをサポートし続ける。



もくもく窯の守り人として 子どもたちの学びをサポート

創立約150年という歴史を持つ上鷹見小学校。そこから西へ歩いてわずか数分のところに「もくもく窯」がある。「炭を作りたい」という子どもの声を機に、今から13年前に校区の方々の協力によって作られた。その時のメンバーだった鈴木さんは毎年3月、小学5年生を対象に竹炭づくりを教えている。子どもたちの貴重な学びの先生として、鈴木さんは本職の先生からも頼りにされる存在だ。校内整備員さんやボランティアの方々の協力も大きい。



気力も体力も使う竹炭づくりは 子どもたちの笑顔が原動力

竹炭づくりに使うのは学校区に生える孟宗竹。窯の温度が高すぎると灰になり、低すぎると火が消えてしまうため、温度と空気の調整には特に気を配る。煙の状態を観察しつつ窯を見守ること24時間。完成までにさらに2-3日。数日間にわたる工程のうち、子どもたちは竹割り、炭入れ、火付け、炭出しで楽しい時間を過ごす。はじめてづくしの体験に終始笑顔。「みんな喜んでやってくれる。それが何よりだね。」鈴木さんの原動力は、そんな子どもたちの姿だ。

学校や地域にさまざまな 恩恵をもたらす竹炭づくり

今では地域を代表する贈答品となった竹炭。煙から抽出される竹酢液も貴重な産物だ。子どもたちにとってのお楽しみは、蓮の果托や栗のイガなどを竹とともに窯に入れて炭化させる、いわば化学の遊び。ニス塗れば工作の材料として子どもたちの感性を刺激する。竹炭づくりの恩恵はなんと広く深いことか。現在、鈴木さんは後継者を募集中。石野や子どもたちのために、竹炭づくりが永く続きますように。

私の
すきな
石野

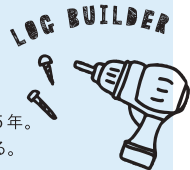
山の木々に隠れがちな大小の岩たち

表面からはわかりにくい、実は小学校のそばには大小の岩が連なる。昔は山頂近くから絶景が臨めたとか。山に抱かれた地形には風が直接降りることは少なく、例えば台風時でもさほど煽られないのだそう。

木と人を結んで生かす 石野のログビルダー

深見さん

石野地区の中切町在住。ログビルダー歴25年。
石野ログクラブの活動も20年間続けている。



遊びの延長から始めた 本格的なログハウスづくり

豊田市立九久平小学校からほど近く、本堂がログハウスでできたお寺がある。大屋根が印象的だ。「手を合わせたような形の合掌造りにしたかった」と語る深見さんは、石野在住のログビルダー。10年ほど木のものづくりを趣味にするうちにログハウスを自宅として建てたのがすべてのはじまり。自宅とほど近い山中に作業場を構え、公私ともに石野を拠点に活動中。「石野は里山感がありながらもまちからほど近い。だからちょうどいいんですよ。」



シンプルイズベストで、丸太の魅力をそのまま生かす

本場カナダの北西部で経験を積み、大小含めると20数件建ててきた深見さん。最近では工場製材するマシンカットが主流だが、深見さんは今もハンドカットにこだわる。「原木が持つ魅力がすごいから。シンプルが一番。」と、山から切り出した木をそのまま生かす。なかには長さ12m、重さ2tの巨大な木も。ログハウスづくりは丸太を一段ずつ組む作業の繰り返しとはいえ、一本一本の太さや特徴を見極めてどの木をどう活かすか決めなければならない。作業はすべて一発勝負。梁をどう見せるかが最大の腕の見せ所だ。シンプルだからこそ、ログハウスには職人の技量とセンスが詰まっている。

森林資源を生かした遊びで、地域にも貢献

深見さんがログハウスに使う木材は、森林組合の協力を得て地元の山から調達することが多い。運搬時に余分なCO2の排出が避けられ、地元の森林資源を生かすことにもつながるからだ。さらに、石野ログクラブの活動も精力的。仲間と共に、ログの端材を生かしてつくったベンチやテーブルを販売したり、ものづくり体験の場を提供するなど、かれこれ20年近く続けている。「休みの日は遊びたいから。メンバーもみんなそうですよ(笑)。」深見さんの遊びは、石野を拠点にこれからも続いていく。

私の
すきな
石野

活動拠点に最適な豊かな自然

チェーンソーの騒音や丸太の搬入出の都合など、石野は木材を扱うには最適な環境。さらに、猪や森の妖精と言われるテンヤ、むささび、リスなど、野生の動物たちと出会えるのも魅力だそう。

人生をどう楽しむか 石野だから作れた楽園

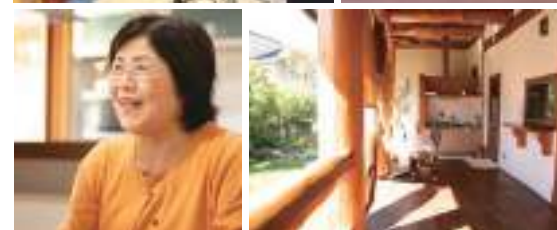
纈纈さん夫婦

多忙だった新聞販売業を引退し、石野へ移住して約10年。夫婦二人でのんびりと、ときには友人たちと賑やかに第二の人生を謳歌している。



とにかく多忙だった現役時代 憧れの暮らしを石野でスタート

大屋根と大胆な梁が特徴のログハウス、様々な草花が丁寧に植えられた庭…。纈纈さんご夫婦は、ここ石野でセカンドライフを満喫している。この土地を見たときに「ここだ!」と直感。分譲4区画のうち3区画を購入した。奥様の姉妹や親戚が集まりやすい場所だったことも決め手に。さらに、数軒先にご主人の中学時代の恩師がいたという嬉しい偶然も重なった。社交的な人柄に加えて地域に積極的に関わったことも、新生活の安定につながった。



家庭菜園、ガーデニング、音楽… 趣味が紡ぐ豊かな時間

ご主人はドラムを、奥様はあるミュージシャンの追っかけをしていたことから、交友関係の多くは音楽つながり。40名ほど入る広やかなリビングが纈纈家のライブ会場だ。北は北海道から南は奄美大島までミュージシャンたちが訪れてはセッションする。皆で集まり、飲み、語らう。これぞご夫婦が叶えたセカンドライフの醍醐味。収穫した野菜が手料理で振舞われたり、奥様こだわりのゲストルームがあったりと、家中におもてなし精神があふれている。それでいて無理がない。根っこにあるのは楽しむ気持ちだ。



人生の楽園への一步は 高い行動力と確かな想像力

「今の暮らしはまさに人生の楽園だね」と、穏やかに笑うご主人。傍らには朗らかな奥様。そんな日々を叶えるコツは何なのか。「特別なことはなにも。ただ、出会った時の感覚を大事にすることくらい。例えばペットを飼うときみたいにね。」これからも纈纈家を中心に、豊かな人生の輪が広がっていく。

私の
すきな
石野

心も体も包んでくれる、豊かな自然環境

「何年も肌に表示していたアレルギー症状が、石野に移住してからは不思議と出なくなった」という奥様。空気のおかげか、ゆとりある時間のおかげか…。きっと、石野ならではの環境がもたらしてくれたに違いない。

地域を温かくつなぐ 石野のスーパーサポーター

鈴木敏朗さん

石野生まれ、石野育ち。消防士を退職後、学校や地域の貢献活動を続けて10年以上。農業経験も豊富。



今日は小学校、明日は中学校…と 垣根を越えた活動に邁進

ラムサール条約に登録された上高湿地を守る会の会長、愛知県交通安全協会の交通指導員、上鷹見小学校やこども園のアドバイザー…。これは、敏朗さんの活動のほんの一部。多くを占めるのは、子どもたちの体験型学習に関するサポートだ。石野のあちこちで年中活動している敏朗さんは、この地域ではちょっとした有名人。きっかけは10年ほど前、お孫さんがこども園に入園した縁で園のお手伝いをしたことがすべての始まり。その後、交通指導員として各小学校と関わり、活動の場が中学校まで広がった。「現役時代よりも今の方が忙しいかも(笑)」と敏朗さん。困った素振りにはみじんも見せない。むしろ、心底楽しそうだ。



私の
すきな
石野

豊かな自然と意外な?利便性

中核市である豊田市にとって、石野はまるで自然公園のような存在。車が無ければ不便な田舎だけれど、市街地から意外と近いところが魅力とか。



子どもたちの「ありがとう」が何よりの喜び

取材当日も、特別養護老人ホーム石野の里へ慰問する小学生たちをバスで送迎していた敏朗さん。お年寄りの前で楽器を演奏する子どもたちを見つめる眼差しには、愛情があふれていた。この日だけではない。様々なシーンで子どもたちと触れ合う表情は、いつでも温かい。そんな敏朗さんのもとには、毎年子どもたちからお礼の手紙が大量に届く。「ありがとうの言葉が何よりのやりがいです。」その一つひとつが財産となって、敏朗さんの今につながっている。

願いは、支える暮らしをいつまでも続けること

「体力的に厳しいと感じることもある。でも、楽しくて苦勞は感じません」と語る敏朗さんの願いは、この活動、この生活をいつまでも続けること。そうして生まれる子どもと大人、さらには地域のつながりこそ、石野の住みやすさを支えているに違いない。



石野だから出会えた 理想の暮らしと子育て

益城さんご一家(ご夫婦30代)

ご主人の海外赴任を経て、市内他地区から石野に移住して約3年。5人の子ともたちと石野で子育てライフを満喫中。



石野と出会い、夫婦そろって移住を即決 最大の魅力は“自然の豊かさ”

「昔ながらの暮らしのいい所を大事にしたかった」と語る益城さんの住まいは木質感たっぷり。暖炉が温かみを演出し、吊り輪が遊び心をくすぐる住空間だ。こだわったのはロケーションももちろん。石野という地に出会った瞬間、ご夫婦そろって「ここが探していた場所だ」と直感した。「石野の魅力は何より自然が豊かなところ。それでいて市街地からさほど遠くないのがいいですね。通勤時間も20～30分ですし、買い物にも不便を感じていません。」



私の
すきな
石野

自然が教科書!のびのび子育てが楽しめる

キツネやウサギなどの野生動物と出会うのも日常茶飯事。キジがヒナ鳥と散歩する姿も見かけられる。虫取りもわざわざ出かける必要無し!自然を身近に感じながら子育てするにはうってつけの場所だ。



心地よい暮らしを支える 地域や人とのコミュニケーション

奥さんは家からほど近い畑で野菜づくりを楽しみ、季節の恵みを家族で食す。子どもたちは土に親しみ、食への感謝を自ずと学ぶ。巫女舞やふれあいまつりなどの地域の賑わいを通してご近所づきあいも欠かさない。ほぼ同時期に越してきたいくつかの世帯が同年代ということもあり、子どもや親同士でコミュニティを築けていることも暮らしを心地よくする大きな要因だろう。

不便はマイナスじゃない!? 楽しむ気持ちが理想の暮らしに会えるヒント

気になる点を上げて上げるならば、長女が通う中学校が遠いこと。でも、それも見方を変えれば「自転車通学が大変な分、体力がある子に育つ」と奥さんは明るく語る。「長所や短所はどの町にもあるでしょう?だから、いい所に目を向けることが大事。虫だって、よく見たら結構奥深い(笑)。子どもと一緒に虫のことを調べたりして楽しんでます。」苦手なことや不便なことも家族でいかに楽しむか。そこに、理想の暮らしを叶えるヒントがあるに違いない。



安心して下さい!
コンビニもあります



詳しくはP.2へ



ひろーい石野地区の中にコンビニエンスストアがわずか2軒!
だから、いろんな人が集まって、今日もにぎやか!



意外?と
アクセス至便な道路事情

詳しくはP.2へ



▲カ石IC



▲おいでんバス

車なら豊田市街地まで約20分!
東海環状自動車道の
豊田勘八ICと猿投グリーンロードの
カ石ICがあるので
市外・県外へのアクセスも便利!
お年寄りにやさしい
地域バスもあります。



日常の贅沢、
豊かな景勝地

詳しくはP.5・P.9へ

雄々しい緑と矢作川の水に抱かれた石野には
自然が作り出した名所が数多くあります。
そんな自然が見せてくれる豊かな表情は
石野にとっては日常であり、
実は贅沢なことでもあるのです。



わたしたちが暮らす 石野はこんな場所!

石野のまちはこんなまち!を改めて総ざらい。人があたたかくて、自然がいっぱいで、意外と便利で、やっぱり田舎で。
いろんなことを含めて、わたしたちは石野の暮らしが好きです!



寄っといで!
人情味あふれる
人たち

詳しくはP.11へ

石野ではさまざまな場面で暮らしを支え合うのが日常的。
今日もあちらこちらで人情味あふれるあたたかな時間が
流れています。



自然あふれるロケーションとそれを生かし繋いできた技や知恵を
学校の授業で子どもたちと楽しくシェア!
教科書だけでは学べない体感型学習を積極的に取り入れています。



田舎ならではの
個性豊かな学校教育

詳しくはP.15へ



大人が趣味を満喫
できる場所

詳しくはP.19へ

石野のロケーションを活かせば釣りやBBQ、薪ストーブなど
夢に描いていた本格的な遊びもお手の物。
人生を思う存分楽しんでいる達人もちらほら...



石野地区への定住を応援する豊田市の各種制度・補助金

※令和2年3月現在。最新の情報は、豊田市ホームページ等でご確認ください。

豊田市山村地域等定住応援補助金

豊田市の山村地域等に地域活動への参加を前提に定住するための住宅を取得した場合に、住宅取得に要する費用の一部を補助します。

補助金額

住宅:取得費の10分の1以内(限度額50万円)
住宅用地:取得費の10分の1以内(限度額50万円。ただし、所有権を2分の1以上有し、かつ、住宅取得に伴い住宅用地を売買によって取得した場合に限ります)



空き家情報バンク

山村地域等での生活を希望する人向けに、賃貸又は売却を希望する空き家情報を提供しています。空き家に定住し、地域住民と協同して生活することができ、地域の生活文化や自然環境を理解しながら居住者としての自覚を持って生活すること等が条件です。



豊田市山村地域等 空き家再生事業補助金

空き家情報バンクで契約が成立し、空き家の改修が必要な場合、改修にかかった費用の10分の8まで(上限100万円)を補助します。



豊田市エコファミリー支援 補助金

スマートハウスを構成する、創エネルギー機器(住宅用太陽光発電システム、家庭用燃料電池システム)、省エネルギー機器(家庭用エネルギー管理システム)、蓄エネルギー機器(家庭用リチウムイオン蓄電池システム、電気自動車等充電設備)の導入、高断熱窓の設置及び次世代自動車の購入に要する費用を補助します。

- ①スマートハウス化設備
(太陽光発電システム及び家庭用エネルギー管理システム(HEMS)を設置し、かつ、家庭用リチウムイオン蓄電池システム又は電気自動車等充電設備(ヴィークル・トゥ・ホーム(V2H))を設置する場合に補助、国のZEH補助金を受けている場合は上乗せ加算あり)
- ②家庭用燃料電池システム
- ③家庭用エネルギー管理システム(HEMS)(既存住宅への設置のみ補助対象)
- ④家庭用リチウムイオン蓄電池システム又は電気自動車等充電設備(ヴィークル・トゥ・ホーム(V2H))(既存住宅への設置のみ補助対象)
- ⑤住宅用エコ窓(既存住宅への改修のみ補助対象)
- ⑥次世代自動車(プラグインハイブリッド車、電気自動車、燃料電池自動車、超小型電気自動車)
- ⑦ハイブリッド車の外部給電設備



編集後記



坂 春孝

編集委員として、主に石野の達人の紹介をさせていいただきました。達人の皆さんは、どの方も自分の技を更に磨き上げ、輝いている姿を目の当たりにして、私もうれしく感じました。編集委員やって良かったなあ!



宮本 正博

石野に引っ越してきて4年になります。まだ知らない石野に触れることで、魅力あふれる地域だと再認識できました。



澤田 清美

人のぬくもりを再認識しました。自然の中で石野のぬくもりを感じてのんびり生活してみませんか。



藤村 信治

石野を選んで移り住もうという人を惹きつけるには、今石野に暮らす人たちが地域に愛着と誇りを持ち、生き生きと暮らしていることが原点でしょう。この冊子が、その一助になれば幸いです。



鈴木 千敏

今回の経験で、春夏秋冬を感じられる自然の中で暮らす石野地区のよさを再認識することができました。



中野 由美

住み始めて22年。まだまだ知らなかった場所がたくさんありました。あなたもほっとできる場所を、石野で見つけてみませんか…。



理想の暮らしを叶える場所を探しているあなたへ。

豊田市石野地区のさまざまな魅力をお伝えしてきました。いかがでしたか?思っていたよりも田舎でしたか?意外と利便性を感じていただけたでしょうか。それでも、やっぱり「百聞は一見に如かず」。本誌を片手に、ぜひ一度わたしたちの石野に来てみてください。そして、あなたの理想の暮らしが叶う場所として石野に住んでもらえたなら、最高に嬉しいです。少しでも心に留めてもらえただけでも光栄に思います。最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

発行者

石野地域会議（事務局 豊田市地域振興部猿投支所）

〒470-0373 豊田市四郷町東畑 70 番地1

電話 0565-45-1214

